

① 鳥取中学校全体の取り組み

本校では、1年間の最初の授業で、福沢諭吉の「よりよい学校にするには」という教材を使い、全学年で人間関係や環境づくりの大切さを学び、クラス目標を立てることにつなげています。慶応義塾の創設時のものではありませんが、現代にもつながるものがあり、生徒たちからも自分たちの学校生活を振り返り、様々な意見が出てきます。新学年になったとき、内容を覚えている生徒も多く、よりよい中学校生活を送るためのきっかけとなっていると感じています。

② 考え、議論する道徳

道徳の授業においては、ICT 機器を活用し、生徒の興味、関心が出るようにしています。スライドや動画を見ることで、イメージが湧きやすくなり、視覚的な支援につながっています。また、ロイロノートを使用することで、様々な意見の交流や、生徒自身の振り返りに効果的です。他の生徒の意見を見ることができたり、思考ツールを用いて、同じような考えをまとめたり、意見の違いをはっきりさせることで、クラスの中での意見の共有の活発化を図っています。

③ ローテーション道徳

学級担任だけでなく、副担任や支援学級担任もローテーションで道徳の授業を行うことで、多くの先生が生徒に関わる授業をめざしています。各授業の生徒の頑張りや意見を、どのように評価につなげていくかが課題です。

④ 学力向上と道徳

各授業の中で、ペア学習や班学習を取り入れており、道徳の授業でも効果が表れています。それぞれが考えた意見を 30 秒程度でペアの生徒と話すことで、全体に発表することが苦手な生徒も、意見共有ができています。班で意見をまとめるときも、メンバーの意見を受け入れながら、話し合う活動が行われています。まとめたものを発表したり、紙やホワイトボードに記入したものを黒板に掲示することで、考えをアウトプットする力の育成につなげています。